

論文審査の要旨

報告番号	総研第 369 号	学位申請者	Soroush Hassani
審査委員	主査	嶽崎俊郎	学位 博士(医学・歯学・学術)
	副査	井戸章雄	副査 谷本昭英
	副査	夏越祥次	副査 堀内正久

**Bidi smoking increases gastric cancer risk in a cohort study
conducted in Kerala, south India**

(Bidi 喫煙は胃がんリスクを増加する：南インド・ケララ州におけるコホート研究)

本研究は、インド南部のケララ州カルナガパリ地域の住民コホート（カルナガパリコホート、約 40 万人）の 30-84 歳の男性 65,553 人を対象として、喫煙（紙巻タバコ、bidi および噛みタバコ）や飲酒などの生活習慣と胃がんの罹患リスクとの関連を検討したものである。Bidi は乾燥したタバコの葉をボンベイコクタンの葉で巻いたもので、紙巻タバコよりも廉価で入手できるため、以前よりインドおよびその周辺国でよく使用されている。カルナガパリコホート研究では、肺や頭頸部の癌などについても同様の検討を行っており、本研究はその一連の研究の一つである。

学位申請者らは 1990-1997 年のベースライン調査で得られた、喫煙・飲酒を含む生活習慣や社会経済状態等のデータと、その後、カルナガパリ地域の地域がん登録による 1990-2009 年間の胃がんの罹患症例のデータを用いてポアソン回帰分析を行った。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) bidi 喫煙によって胃がんの罹患リスクは有意に高くなっていた（相対リスク：1.6）。
- 2) さらに、多い喫煙本数、長い喫煙期間および若い喫煙開始年齢のいずれも胃がんリスクの増加と有意に関連していた。
- 3) 一方、紙巻きタバコ、噛みタバコおよび飲酒習慣は、胃がんリスクと関連していなかった。
- 4) bidi 喫煙による胃がんリスクの増加について、紙巻きタバコや飲酒との相互作用を検討したが、有意な関連は認めなかった。

紙巻タバコと胃がんとの関連は、多くの疫学研究で明らかとなっているが、本研究では有意な関連は見られなかった。その一つ理由として、本研究の対象集団では、経済的な理由により紙巻きタバコの喫煙本数が少なかったことによると考えられた。

Bidi 喫煙と胃がん罹患率に関する研究はいくつかあるが、一致した結果は得られておらず、本研究は、bidi 喫煙による胃がんリスクの増加をコホート研究で初めて確認した研究である。古くから用いられていた廉価な嗜好品であるためか、インドでは bidi 喫煙者が多く、bidi 喫煙による健康影響に関する正しい知識を住民へ周知する必要性が大いにある。本結果は、bidi 喫煙と胃がん罹患リスクとの関連を明らかにしたもので、同地域の今後のがん対策に大きく貢献する結果である。

よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。